

事項	<p>水稻早生品種「ほっかりん」の湛水土中条播栽培における良食味・高品質米生産のための生育指標及び刈取適期</p>		
ねらい	<p>低アミロース米の水稻早生品種「ほっかりん」の湛水土中条播栽培における良食味・高品質米生産のための生育指標及び刈取適期を明らかにしたので、参考に供する。</p>		
指導 参考 内容	<p>1 良食味・高品質米安定生産のための適正収量及び籾数 (1) 良食味・高品質米安定生産のための適正収量は550kg/10aである。 (2) 適正収量550kg/10aを得るために必要な籾数は28,000粒/m²である。</p> <p>2 幼穂形成期における生育指標 最適籾数を確保するための幼穂形成期の草丈は58cm、茎数は520～690本/m²、生育量(草丈×m²当たり茎数)は30,000～40,000cm・本/m²、葉色値(SPAD502)は35～36である。</p> <p>3 刈取適期 刈取りは、出穂後積算気温800～1,000℃程度を目安とし、刈取始期は籾が90%以上黄化した時期を目安とする。刈取時期が早いと青米やしいな、屑米が多くなり、刈取適期を過ぎると茶米の発生により外観品質が低下する。</p>		
期待される効果	<p>「ほっかりん」の湛水土中条播栽培における良食味・高品質米の安定生産技術の指針となる。</p>		
利用上の注意事項	<p>1 農林総合研究所藤坂ほ場(黒色・黄褐色土)で得られたデータを根拠にしている。 2 生育指標は、播種後落水管理(2～3週間)、苗立数が80～100本/m²、穂肥1回栽培(幼穂形成期、3kg/10a)で得られた結果である。</p>		
問い合わせ先 (電話番号)	農林総合研究所 藤坂稲作部 (0176-23-2165)	対象地域	県南北東・津軽半島北部地域を除く県下全域
発表文献等	<p>平成24～25年度 試験成績概要集(農林総合研究所)</p>		

【根拠となった主要な試験結果】

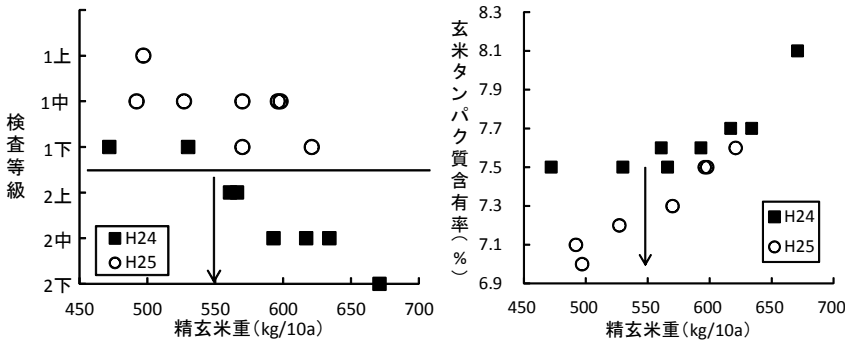


図1 精玄米重と検査等級、玄米タンパク質含有率との関係
(平成24、25年 青森農林総研藤坂)

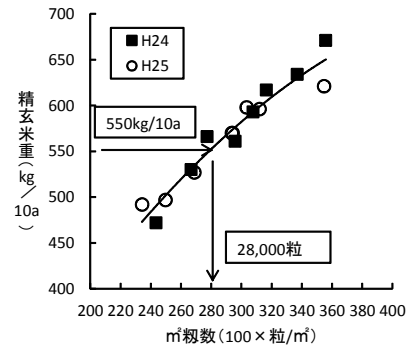


図2 籾数と精玄米重
(平成24、25年 青森農林総研藤坂)

・平成24年には精玄米重550kg/10aを越えると落等し、また、玄米タンパク質含有率も高くなった。
→ 550kg/10aを適正収量とする。
・550kg/10aを得るための㎡当たり籾数は28,000粒である。

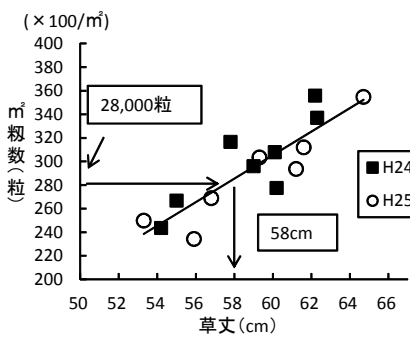


図3 幼穂形成期の草丈と籾数

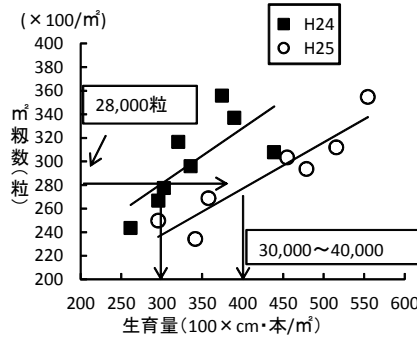


図4 幼穂形成期の生育量と籾数

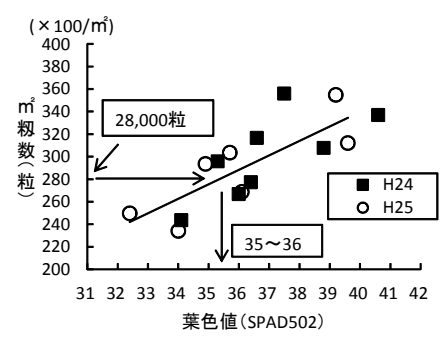


図5 幼穂形成期の葉色値と籾数

(平成24、25年 青森農林総研藤坂) (平成24、25年 青森農林総研藤坂) (平成24、25年 青森農林総研藤坂)

・㎡当たり籾数28,000粒を得るための幼穂形成期の草丈は58cm、生育量は30,000~40,000cm・本/㎡、葉色値は35~36である。

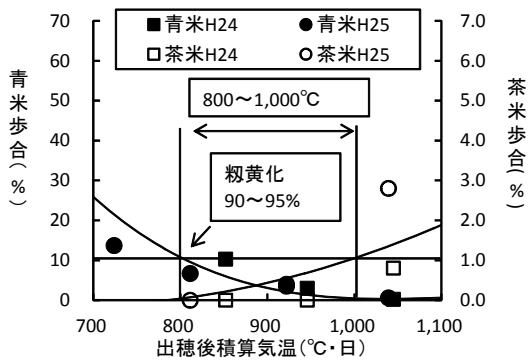


図6 出穂後積算気温と青米歩合、茶米歩合

(平成24、25年 青森農林総研藤坂)

(注) 出穂後40日間の日平均気温

平成24年：24.0℃、平成25年：22.1℃

・刈取始めの目安となる青米歩合10%以下となる時期は出穂後積算気温800℃、刈取終期の目安となる茶米が増加し始める時期が出穂後積算気温1,000℃である。